



# いきいき通信 152号 (平成30年1月号)

iki iki - tushin

Take Free!

## 地域コミュニティの活性化評価され水源の里が国から表彰

水源の里指定15集落で組織する「水源の里連絡協議会」が、「地方自治法施行70周年記念総務大臣表彰」に選ばれました。これは、地域の振興と活性化を担う組織として、定住促進、都市農村交流の推進、特産品開発等の事業を行うことによって、集落の過疎高齢化に歯止めをかけ、地域振興に寄与したことが評価されたものです。

12月19日(火)には、綾部市役所で「伝達式」が開催され、水源の里連絡協議会から役員4名(西田会長：老富、渡邊副会長：古屋、佐々木副会長：橋上、阪田監事：市志)が出席、山崎市長から表彰状と盾を授与されました。

山崎市長はお祝いの言葉の中で「この活動は、市内集落のモデルとして位置づけられ、水源の里の取組が全国に広がるなど、地域力の向上に大きく貢献されてきている。集落間連携による都市住民との交流や情報発信など、それぞれの水源の里集落の連携強化を図っていただき、更なる地域振興に」と述べました。

また、西田会長は「今後の水源の里の活動は“連携”が重要になる。10年の歴史の中で各集落が独自に取組を進めてきた。だから、各集落の取組や現状、事情など互いに話をしながら、理解を深めていく取組を進めたい。市へもこうした活動への更なる支援を続けてもらえれば」と新たな水源の里事業の発展に向けた抱負を語られました。



平成25年の総務大臣表彰に続き、協議会として2度目の表彰

## 奥・中上林地区に「里の公共員」配置

1月10日(水)京都府綾部総合庁舎で、中上林地区五泉町(市野瀬自治会)の工忠照幸(くちゅう てるゆき)さんを「里の公共員」として任命する辞令交付式が行われました。

- 工忠さんは、奥・中上林地区を担当する「里の公共員」として1月から活動をスタートし、
- ① 「森の京都」上林ブランド形成のため奥・中上林地区が連携し教育体験旅行や農村都市交流イベントの企画運営
  - ② 地域資源や人材を紹介し、地域の魅力を発信する冊子やホームページの作成
  - ③ 空き家情報や地域情報をU・Iターン者らに紹介する農家民宿を活用した拠点づくりなどに取り組みます。

里の公共員は、京都府の特別職非常勤職員で、別の仕事を持ちながら、上記の任務に当たります。

「宿や旅行業など観光の経験を活かして、特産品や集落のPRを通じ、移住希望者とのマッチングなどに市とも連携しながら取り組みたい」と抱負を述べられています。



野村中丹広域振興局長から辞令交付を受ける工忠さん(写真左)

## 龍谷大学生が研究成果を報告。水源の里との連携促進へ

1月14日（日）、水源の里・市志に龍谷大学政策学部的場ゼミの学生5名が訪れ、集落で一年間学んだ研究成果を報告。市志住民15名が参加し、約1時間の発表を聞きました。

的場ゼミは「持続可能性」をテーマに研究に取り組んでおり、過去には滋賀県沖島などでも生活・文化等の調査を実施してきました。

市志での活動は昨年春にスタートし、3回生を中心に12名のゼミ生が納涼祭や子どものための森林学習教室、昨秋開通した光野峠の整備などにも積極的に参加。実働部隊としても活躍し、市志住民と一緒に汗を流しながら、調査・研究に取り組んできました。

7月に開催された「子どものための森林学習教室」では、ゼミ生の提案で通常の内容に加えて「森林について学ぶスタンプラリー」「フォトフレームづくり」を企画し、イベントを盛り上げたほか、9月には、市志での合宿調査も行い、市志の生活を学ぶと共に、住民との交流を深めてきました。

こうした約7か月間の活動を総括し、市志の活動のまとめなどに触れた後、「市志は様々な活性化に取り組んでいるが、それが定住者の呼び込みにつながっているか」という意見を提示。併せて、

「定住のきっかけとなる集落ツアーの企画」、「集落の暮らしをまとめた映像の作成・情報発信」の2つの取組を提案しました。

報告後の質疑応答では、住民から質問も出され、集落の今後に向けて議論を深めました。

来年以降活動に取り組む2回生へ研究を引き継ぎながら、「水源の里」との連携を今後も進める計画を作成されており、市志住民は、大学生の発想を取り入れた新たな活動へと発展するよう期待を寄せられています。



市志住民と龍大生との記念撮影。今やすっかり顔なじみに

## 日々の暮らしを考える「奥上林公民館大会」開催

1月14日（日）、奥上林公民館が、4回目の開催となる「奥上林公民館大会」を開催、公民館2階に約60名が集まり、学びを深めました。

三ツ谷公民館長は「奥上林地区は高齢化や交通の便など課題を持つ地域。そうした中で集い、考える場として公民館大会を開催した。今後はぜひ奥上林に住みたい、といってもらえる地域づくりをしていきたい」と挨拶を述べました。

続いて、コミュニティナースが「60歳からの健康管理」をテーマに日々の健康づくりを説明。「医師から『気をつけて』といわれても何に気をつければいいかわからない」という地域からの声に対し、「例えば糖尿病に関しては「HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）」という検査項目を見て、この数値が高ければ食事に工夫をしてもらいたい」など、健康づくりの指針となる健康診断の受診を呼びかけるとともに、健診結果の見方を解説しました。

次に江上巡査部長らが「振り込め詐欺をやっつけろ」と題し寸劇を披露。還付金詐欺への注意を呼びかけました。

その後60年代にヒットした山口百恵主演で離島生活を描いた「潮騒」を観賞。様々な学びを得た一日となりました。



寸劇では奥・中上林の垣根を越え両連長、民生委員さんらも共演